

Soccer News Shiga

2024.3.11

発行 (公社) 滋賀県サッカー協会

責任者 吉田 和弘

〒524-0212 滋賀県守山市服部町2439番地

TEL:077-585-0982/FAX:077-585-0983

e-mail:shigafa@oregano.ocn.ne.jp

http://www.shigafa.com

印刷:スペース工房

令和 6 年 (2024 年) の年頭にあって

.....

滋賀県サッカー協会会長 前田 康一

令和 6 年 (2024 年) は、1 月 1 日の「能登半島地震」や 2 日の航空機事故と大変な災害と事故で新年が明けました。能登半島地震で被災された方々へ心よりお見舞い申し上げますとともに、1 日も早い復興を祈念いたします。

そのような中、滋賀県のサッカー界に吉報が来ました。全国高校サッカー選手権大会において、近江高校が滋賀県勢としては 18 年ぶりに決勝戦まで勝ち進み、見事準優勝という成績を上げてくれました。これは滋賀県のサッカー関係者だけでなく、多くの滋賀県民に大きな感動を

与えてくれました。また、今年の滋賀県サッカー界の躍進に夢を与えてくれました。

2024 年は、いよいよ「滋賀県国スポ・障スポ」の前年になります。10 月には国スポのリハーサル大会となる「全国社会人サッカー選手権大会」が国スポの開催会場で行われますが、無事大会の運営ができますよう、県協会の皆様のご協力をよろしくお願いします。

2024 年が滋賀県サッカー界の飛躍の年となりますことを祈念し、年頭の言葉とします。

第 102 回全国高校サッカー選手権大会を終えて

.....

近江高校

2023 年 12 月 28 日より開催された「第 102 回全国高校サッカー選手権大会」に 2 年連続 3 回目の出場となりました。

初戦の 2 回戦は 12 月 31 日に等々力陸上競技場で日大藤沢(神奈川)と対戦、完全アウェイ状態のなか前半 6 分に失点、その後もチャンスをつくれる展開となりましたが、後半 13 分に右サイドからクロスに相手 DF が競ったこぼれ球をシュートし同点。迎えた PK 戦では 1 人目のキックを止め、1-1(PK4-3)での勝利となりました。

3 回戦は 1 月 2 日に等々力陸上競技場にて明秀日立(茨城)と対戦、前半 22 分に失点し、2 回戦と同様に先制される展開となるも、後半 8 分には PK を獲得、それを冷静に決め同点に、PK 戦では 2 人目まで成功したのち、GK が 3 人目、4 人目を止め、1-1(PK4-2)で勝利し、ベスト 8 進出を決めました。

準々決勝は 1 月 4 日、浦和駒場スタジアムで神村学園(鹿児島)と対戦、前半 12 分に先制するも 18 分に頭で合わせられて同点。さらに 22 分に決められ 1-2 で前半終了。後半は 13 分、右サイドからのクロスを手で押し込み同点とするが、15 分に直接フリーキックを決められ逆転された。しかし、26 分コーナーキックから頭で決め 3-3 の同点、さらに後半アディショナルタイム、左サイドからのクロスを経ながら押し込み、4-3 で競り勝ち、ベスト 4 進出を決めました。



準決勝は 1 月 6 日、国立競技場で行われ、堀越(東京 A)と対戦、前半 11 分、シュートが相手 DF に当たり右にこぼれたボールを決め先制。さらに 2 分後、右からのシュートは DF に当たり、セカンドボールを狙ったが DF にクリアされ、またそのこぼれ球に反応して押し込み 2-0。さらにドリブルで中央突破しシュートしたこぼれ球を決め 3-0。その後、アディショナルタイムに PK を与え失点しましたが、3-1 での決勝進出を決めました。

決勝は 1 月 8 日、青森山田(青森)と対戦、観客 55,019

人の声援の中キックオフ。前半 23 分に失点し 0-1 で前半戦を終了。後半、中央からドリブルで突破しエリア内中央右に繋がり中央に入れたボールを押し込み 1-1 の同点としたが、その後、2 失点をして 1-3 での敗戦となりました。

今回の選手権大会は、多くの声援を受け精一杯戦っている選手たち、応援席で選手たちを鼓舞してくれた部員・

保護者・OB・OBの保護者・在校生たちの素晴らしい光景が見れました。クラブ強化を始めてから 8 年と歴史の浅い近江高校サッカー部ではありますが、多くの人たちに支えられこの舞台に連れてきてもらえたと感じることができました。

最後になりましたが、滋賀県の代表として国立競技場で決勝の舞台に立てたことに日頃から近江高校をご支援いただいております、滋賀県サッカー協会をはじめ、多くの指導者、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

第33回全国専門学校サッカー選手権大会を終えて

ルネス学園 監督 城山 昌人

全国各地の多種多様な実践教育を学んでいる専門学校生が1年に一度、同じ目的をもって争われる全国専門学校サッカー選手権大会が今年で33回目を迎え、大会17連覇中の関西での開催となりました。

われわれルネス紅葉スポーツ柔整専門学校は2連覇・13回目の優勝に向かい大会に臨みました。

まだまだコロナの影響も残っており、現場実習がある医療系の専門学校の大会への参加は消極的な状態が続いています。しかし、新たな学校の参加もあり新しい風が大会へ吹き込まれ大いに盛り上がりしました。

われわれルネス学園は、大会初日から連勝を重ね決勝戦までたどり着きました。

決勝戦では前半開始20分で退場者を出し、一人少ない状況下で残り70分をチーム一丸となり戦い抜くことが

できました。隙を作らず我々の武器を前面に押し出している優勝となり、また大会最多得点52点、無失点優勝で大会を終ることができました。

最後になりましたが、大会参加にあたり多くの方々からご声援を頂きありがとうございました。



第59回全国社会人サッカー選手権大会を終えて

守山侍 井上 卓哉

2023年10月に佐賀県で開催された第59回全国社会人サッカー選手権全国大会に、関西代表として出場致しました。

まずは、この大会を戦うにあたり皆様からのご声援・ご支援を頂きました事、そして現地会場にて応援頂いた滋賀県サッカー関係者様含め多くの方に支えて頂いた事、改めて御礼を申し上げます。

この大会は、2021年にも関西代表として出場権を獲得し、栃木県で開催される全国大会へ出場予定でしたが、コロナの影響を考慮し大会中止となり、クラブとして初の全国大会への出場は叶いませんでした。

その時の選手やスタッフなどの思いも今大会のチームは背負って、全国大会に挑みましたが、結果は1回戦で東海サッカーリーグ1位の《wyvern》さんと対戦し、2対2で決着がつかずPK戦にて悔しくも敗退となりました。

今回、全国各地域クラブがJFL昇格を目指して戦う覚悟を肌で感じた事が、この先のクラブの進歩に繋がると思います。



そして、2024年の全国大会開催地は『滋賀県』。

当然ながら我々が出場し、地元で奮起する姿を多くの皆様に応援して頂きたいですし、全国の素晴らしいチームのゲームを生で観戦出来る事は凄く貴重なシーズンだと思います。

これからもクラブ一丸となり一步一步成長していき、滋賀県のクラブとして全国大会で活躍出来るよう精進してまいります。



JFA第47回全日本U-12サッカー選手権大会を終えて

..... A.Z.R (アズーロ) 監督 古 荘 隆 徳

この度、滋賀県代表として2023年12月26日～ 2023年12月29日に鹿児島県で開催された「JFA第47回全日本U-12サッカー選手権大会」に出場いたしました。

2年連続3回目の全国大会出場となりました。前日の25日の夕方から開会式が行われ選手、指導者の全員がセレモニーに参加し明日から始まる全国大会予選リーグに向けてのモチベーションアップになりました。ミーティングではどれだけ楽しんでプレーが出来るか。この1年間で取り組んで来たことがピッチで表現が出来るかを確認しました。

【大会結果】

<予選リーグEグループ>

- ・vs浦和レッズ (埼玉県第2代表) 0-1×
- ・vsサガン鳥栖 (佐賀県代表) 0-3×
- ・vsFCアロンザ (愛知県代表) 0-2×



予選リーグ初戦は、高い技術やスピードがある優れた選手が多くいるJリーグ下部組織のチームの浦和レッズ戦。初戦の緊張とJリーグ下部組織との対戦を過剰に意識しプレーが固くなってしまい開始3分で失点しました。その後は相手のストロングポイントの左サイドを抑え攻撃に出る場面が多くありましたが得点をする事が出来ず0-1で敗戦しました。

ゴール前でのフィニッシュの部分での精度が課題となりました。

予選リーグ2戦目は、初戦と同じくJリーグ下部組織のサガン鳥栖で、技術、スピード、フィジカルなど優れた選手が多くいました。緊張も無くなり前半から攻撃をする時間帯も多く相手ゴールに迫るシーンもありましたが、前半終了間際にカウンターで失点、後半も攻撃に出ますが終了間際に2失点し0-3で敗戦となりました。

課題にでたゴール前でのフィニッシュの部分は改善が出来ませ

んでした。

予選リーグ3戦目は前日の予選リーグで2勝している愛知県代表FCアロンザでした。

FCアロンザは技術、スピード、判断などハイレベルなチームでした。試合序盤は相手に圧倒され失点しましたが、失点後はA.Z.Rらしさが徐々に出てきて今後に繋がる試合となりました。

今大会は昨年の全国3位の上に行くことを選手達は目標にしましたが、結果は予選リーグ0勝3敗 0得点6失点という結果に終わりました。

全国大会で1勝する難しさ、1点を取る難しさ、選手達は感じてくれたと思います。指導者としてもとても勉強になり新たな目標が出来ました。

この1年、選手達は色んな大会に参加し多くの経験をしました。県外の強豪と対戦することで技術力やメンタル

強化、戦術面の向上に繋がりが着実に成長しました。

オフザピッチでも選手達が自ら考え行動が出来るようになり、仲間と共に助け合い色々なことが出来るようになりました。遠方への送迎、日々の選手の体調管理など保護者様にはご理解とご協力を頂きサポートして頂きました。

素晴らしい環境で有意義な時間を過ごせたことに指導者としてこれまでお世話になった全ての方に感謝しかありません。今後チームとしても選手と共に成長し新たな歴史を作っていきたいです。全国大会での経験を滋賀県や関西の発展の為に微力ながら発信していけたらと思います。

最後に滋賀県サッカー協会をはじめサポートや支援をして頂いた全ての方に御礼申し上げます。

第11回滋賀県フットボールカンファレンス2023

..... 技術委員長 梅田 英幸

カンファレンスの目的は、滋賀県のサッカーに関わる者(関係者、選手、指導者、審判等)が一堂に集い研修することで、滋賀県のサッカーの発展に寄与することです。

12月23日(土)に、ピアザ淡海(滋賀県立県民交流センター)大会議室において、第11回目となるカンファレンスが開催されました。

- ・内容 ① 「Japan's Way」
- ② 「日本の女子サッカーの未来
～育成への示唆～」
- ③ 「育成年代における怪我の予防」
- ① 日本サッカー協会の育成ダイレクターの影山雅永氏による「Japan's Way」についての講演でした。「Japan's Way」とは、ナショナル・フットボール・フィロソフィーとして、全国のサッカー関係者と共有するビジョンとして2022年に策定・発信されているものです。非常に理解しやすく講演をして頂きました。「Japan's Way」は、JFAのホームページからもダウンロードすることができます。
- ② 今年度、中国の杭州で開催されたアジア競技大会にて、日本女子代表監督として優勝された狩野倫久氏による「日本

の女子サッカーの未来 ～育成への示唆～」という講演でした。即席チームによるアジア競技大会優勝へのプロセスを踏まえながら、育成への大切さをご教示して頂き、大変参考になりました。今後、狩野氏はU-20日本女子代表監督として、FIFA U-20女子ワールドカップ2024を目指されます。

- ③ 県サッカー協会医事委員の林中和也氏による「育成年代における怪我の予防」というテーマでの講演でした。各年代での起こりやすい怪我と予防について、丁寧に説明をして頂き大変興味深い内容でした。内容については、滋賀県サッカー協会のホームページに掲載してあります。

今年度は、ピアザ淡海をお借りし、講演形式で開催いたしました。約80名の方に参加して頂き、滋賀県のベクトル合わせの一助になったのではと思っています。次回も是非ご参加下さい。



アジア競技大会日本女子代表

U-20日本女子代表監督 狩野 倫久
SAGAWA SHIGA FOOTBALL ACADEMY ディレクター



令和6年(2024年)1月27日(土) 大津プリンスホテルにおいて、滋賀県サッカー協会主催「第19回アジア競技大会サッカー 日本女子代表監督 狩野 倫久 優勝祝賀会」を開催いたしました。当日は、佐々木則夫氏(JFA女子委員長)も同席され、有意義な会となりました。そこで、今回発行の広報誌にアジア大会について寄稿を頂戴いたしました。

今回、日本女子代表チームは、中国、杭州・温州にて開催されました第19回アジア競技大会2022へ参加しました。今回の日本女子代表チームは、FIFA Women's World Cup 2023 AU・NZの後、なでしこジャパンが、北九州にてアルゼンチンと国際親善試合、またパリ五輪アジア2次予選もあるため、日本女子代表チームとして別編成での大会参加となりました。

WEリーグでの活躍が著しい選手やU-19女子代表チームで伸びしろを感じさせる選手を中心に、昨年1年間視察活動을続け、チーム編成をしました。

アジアチャンピオン、優勝という目標に対し、一戦必勝という考えはもちろんのこと、実際にはチームとして擦り合わせる時間とTR回数に制限がある中、決勝までの6戦を見越し、グループステージ3戦の中でチームの攻守における狙いを、実戦を通して積み上げ構築していく必要がありました。

◎試合結果

【グループD】 9/22 (金) GS第1戦 (@Wenzhou Olympic Sports Centre Stadium) 日本女子代表 8 (4-0) 0 バングラデシュ女子代表
9/25 (月) GS第2戦 (@Wenzhou Olympic Sports Centre Stadium) 日本女子代表 8 (5-0) 0 ネパール女子代表
9/28 (木) GS第3戦 (@Wenzhou Olympic Sports Centre Stadium) 日本女子代表 7 (2-0) 0 ベトナム女子代表
9/30 (土) 準々決勝 (@Wenzhou Olympic Sports Centre Stadium) 日本女子代表 8 (1-0) 1 フィリピン女子代表
10/3 (火) 準決勝 (@Liping Sports Centre Stadium (中国/杭州)) 日本女子代表 4 (4-1) 3 中国女子代表
10/6 (金) 決勝 (@Huanglong Sports Centre Stadium (中国/杭州)) 日本女子代表 4 (1-1) 1 朝鮮民主主義人民共和国女子代表

決勝戦は、37,166人の観衆の中、DPR.Kを応援する声が多く、試合立ち上がりから相手は前線やサイドのスピードのある選手を起点にダイナミックなアクションからゴールを狙い、日本は相手の勢いに耐える時間が続くも、前半10分に一瞬の隙を突き相手DFの背後へ抜け出し先制点を奪いました。

相手DPR.Kは前線からアグレッシブにプレッシングをかけてくることはわかっていました。その中で我々日本は、背後を狙いながらも相手FW・MFを引き出し、相手のコンパクトな状況を間延びさせる意図がありました。

後半、相手は疲労からの判断ミスにより、強くプレスに来るものの遅れとズレが生じ、スペースが空き、攻め込む隙が生まれ追加点を重ねることができました。

球際のバトル、個々の粘り強いデュエル、ブロック・カバーなど一体となって守り切り追加点を許すことなく4-1のまま試合終了、大会連覇を達成しました。



◎総括

チーム立ち上げ当初より「大会において、ファイナリストになりアジアチャンピオンになる。タフでハードなアジアでの戦いの中で選手としての価値を上げる」ということを掲げていました。その目標に向け、経験のある選手たちがチームの中心となり、若い選手がチャレンジしやすい空気をつくってくれたことで、年齢層やカテゴリーなど違いはありましたが、選手全員が失敗を恐れず積極的に日々チャレンジし、自分の武器/長所をアジア競技大会という国際大会を通し真剣勝負の場でさらに磨いていきました。

今回、中国での活動において非常に制限がある中ではありましたが、TR(回数や時間等)などにおいても、選手個々の個人戦術のベースが高く、回数が少なく短時間でのTRにおいてもチームのコンセプトやゲームモデル、そこから試合に対しての戦術的な狙いや対策など、理解し即試合の実戦の中で再現し結果に繋がれたことは、選手個々のポテンシャルの高さと試合ごとに大きく変化し成長する姿がありました。

今大会を優勝という形で終え、アジアの舞台、アウェイの環境の中、泥臭く粘り強く、タフに戦い目標を有言実行とした選手たち、今回の大会をきっかけにさらに大きく変化し成長することを強く願います。

◎今後の抱負

今回のアジア競技大会を通じ、女子のサッカー競技における可能性、ポテンシャルの高さを、改めて感じる大会となりました。選手たちはアウェイを感じる様々な状況においても常に明るく前向きで、チームとして初めに掲げた目標に向け主体的に取り組む姿勢に、指導者として多くの気づきや学ぶものも多くありました。

今後は、今回のアジア競技大会での戦いはもちろんのことU-20女子代表での活動での取り組みなども含め、滋賀県内の(特に育成年代)指導者の方々へ情報を共有し連携を図り、女子をベースにしながらも発展的に、滋賀県全体の強化育成・普及、指導者養成などの充実を目指し、それらが滋賀県サッカーの発展、日本サッカーの発展に繋がること、そしてその取り組みが自身の指導者としてのレベルアップにつながればと強く願います。

